

子供が地域に目を向けるためにも 多様な人間関係を持たせましょう

地域の多様な価値観を持つ人々の中で、様々な実体験を通じて子供たちの個性や感性が磨かれます。年がかけ離れた世代と付き合うことで、深い人間性の形成にも繋がることでしょう。しかし、そのような機会が著しく減少しています。子供たちの社会性低下やコミュニケーション力不足は、他人に無関心な人間を増やし、将来に大きなつけを残しかねません。子供に地域と関わる機会を与えましょう。



地域は子供にとって社会への最初の扉です。登下校時の近所の人との挨拶も社会性を磨く第一歩となります。ところが、近所に遊ぶ場所がなかったり塾やクラブ活動に時間をとられる、あるいはゲームやパソコンに熱中するあまり人との関わりが少なくなっているのが現状です。近所の大人に怒られることも、自然を体験をする機会がほとんどない子供たちもいることでしょう。

しかしながら、地域社会と関わることで子供が社会性を高めそして道徳心を養うなど人間形成にも大きく影響していきます。限られた人間関係の中で起きるいじめも、広い社会の人間関係を持つことで減らすことができるでしょう。密な人間関係から開放されるためにつながりが減った地域コミュニティのついで、子供に残すことなく、大人の責任として見つめ直しましょう。

提言の背景となった事業

- ・ みんなで集おう！地域コミュニティ
～地域に広げようコミュニティのWA～

参加した子供たちは、知らない大人やお年寄りとのふれあいの中で「地域の顔見知り」を増やしたことと思います。会っても会釈さえない子供もいると嘆くより、自然と社会性が身につく地域のイベントに子供を対象とした事業を組み参加を促していくことで、子供たちとの距離も縮まり地域社会を自然と体験していきます。